

令和4年度 第3回酒田市総合教育会議議事録

開催日時	令和5年2月14日（火）13：30～14：46
開催場所	酒田市民会館「希望ホール」2階 練習室1
出席者	丸山至市長、鈴木和仁教育長、岩間奏子委員、神田直弥委員、村上千景委員、阿部浩委員
（市長部局）	前田茂男総務部長、中村慶輔企画部長、阿部武志企画調整課長
（教育委員会）	池田里枝教育次長、佐藤元教育次長、高橋浩平企画管理課長、真寫齊企画管理課スクール・コミュニティ推進主幹、小松泰弘学校教育課長、五十嵐敏剛学校教育課指導主幹、岩浪勝彦社会教育文化課長、齋藤聡スポーツ振興課長
協議事項	本市の教育を取り巻く諸課題について <ul style="list-style-type: none"> ・酒田市立第四中学校区内の義務教育環境のあり方 ・「酒田市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の前文（案）について

1 開会

（阿部企画調整課長）

これより令和4年度第3回酒田市総合教育会議を開会いたします。本日の会議の進行を務めます企画調整課の阿部でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。本日2名の方から傍聴の申し出をいただいておりますので報告いたします。また、本日の資料1～6については、傍聴者へも配布してございます。

それでは初めに、丸山市長からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

（丸山市長）

本日は大変お忙しいところ、酒田市総合教育会議にご出席いただきまして本当にありがとうございます。今年度最後の総合教育会議となります。それぞれのお立場があると思いますが、ご意見をお聞かせいただければありがたいと思います。

午前中に、酒田市の令和5年度予算について記者会見をさせていただきました。10日の教育委員会定例会に令和5年度の予算をお示ししたと伺っておりますが、教育費については、教育長の熱い思いもあり、一定程度予算措置を講じさせていただきました。予算編成作業を通じて、教育関係に随分予算を割いてきたと改めて思ったところです。施設も抱えているため、老朽化してきますと更新費用等も重なりますし、これからも教育費については、お金が無いから出せないということにはならないようにしなければいけないと思いつつ、行政体としてしっかり財政基盤を保たないと、それも実現できませんので、そのことをしっかり意識し懐事情を管理しつつ、教育予算についても、措置すべきところには措置をしていく必要があると思ったところです。ご存知の通り、来年度、文化芸術部門を教育委員会から市長部局に持って参りますが、様々なソフト事業を含めて、お金だけではなく手間隙かかる部門かと

思っておりますので、これからも教育委員会と連携を取りながら市長部局に移っても、市民のためにしっかりと取り組んでいく必要があると理解をしております。そういった中で、本市の状況は依然として人口減少も収まらないということです。とりわけ、令和4年の出生数が、458人と500人を割ってしまい、もっともっと低くなっていく可能性もあるわけです。令和5年度以降、新しく策定しました酒田市総合計画後期計画に則って、まちづくり、教育、福祉、医療、産業振興全て取り組んでいかなければいけないと思っておりますが、記者会見でも重点的に説明させてもらったのは、ESCO事業。民間の力も借りながら、小中学校も含めて電気を全部LED化する事業です。長期的に見れば、コストの縮減になるためしっかり取り組みをさせていただきます。また、山居倉庫。現在、文化財関係は教育委員会にあるわけですが、令和5年度は市が買い取る年度になりますので、その予算も見込んでおります。スポーツでは、国体記念体育館の改修に大枚をはたいてやる年になるということ、その辺に重点を置きながら説明をさせていただきました。予算はありませんが、性的少数者に対する支援の仕組みについて少し質問が出ました。酒田市では、文化芸術基本条例を作り、振興計画を策定して、これまで教育委員会主導のもとで文化芸術振興をやってきましたが、その中でよく議論されたのは社会包摂という言葉でした。特別な環境にある人に対しても、社会で包み込むような寛容さが一般的に認められなければならない時代だということです。そういう趣旨から考えて、地域社会として性的少数者の皆さんに対しても寛容な環境を作る必要があるということで、今回は公営住宅への入居資格の関係が前面に出ますが、それに限らず、他の面でも、行政として手を差し伸べる時代になっているということを県内では初でしたけれども、全国的には半数以上がそのような環境になっているわけなので、遅ればせながらそういう対応をさせていただきました。今日のニュースで、山形東高校の生徒さんが、校長先生に、そういった意味での教育の重要性を提言されていた映像がNHKで流れていました。酒田市の教育委員会、教育行政の中でも、小学生中学生の頃から、そういったことに対する理解を深める教育もこれから大事になってくるだろうという思いを持ったところです。

今日は、項目を二つ、第四中学校区内の義務教育環境のあり方についてと、総合的な施策の大綱の前文案について取り上げさせていただいております。先ほど人口減少の話を申し上げましたが、第四中学校の学区内においては、特に小学校において児童数が非常に少なくなってきた現状で、今後も少子化が進み、複式学級がもっともっと広がっていくという環境の中で、どういった教育環境の整備が必要になってくるか、その辺りを皆さんと意識を共有させていただき、これからの教育行政にも反映していきたいと思っております。教育の施策の大綱でも、そういったことを含めた形で、しっかり表記をして、市民の皆さんに提示する必要があると思っております。限られた時間ですけれども、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(阿部企画調整課長)

続きまして、鈴木教育長からご挨拶をお願いいたします。

(鈴木教育長)

丸山市長におかれましては、大変お忙しい中、第3回酒田市総合教育会議を開催していただきましてありがとうございます。

先程、来年度予算の話もございましたが、大変無理を言って割いていただきました。私達としても、先々、色々な形で見直しをしていかなければいけないと話しているところです。今日は、第四中学校区の義務教育環境と大綱がテーマということですが、予想を上回るスピードで児童生徒数が減っている中で、ちょっと遅かったかなと反省をしているくらいですが、どうあるべきかご意見をいただければと思っております。また大綱については、令和2年度に策定しました第2期酒田市教育振興基本計画ですが、令和6年度に見直しを考えていたのですが、酒田市総合計画の後期計画が動き出しますので、私達も来年度に見直しをして、令和6年度から後期計画がスタートするよう考えております。今日の大綱の前文に関しましては、非常に大きな意味合いを持ってくるかと思っております。限られた時間でございますけれども、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたいと思ひます。

3 協議

(阿部企画調整課長)

それでは、これより協議に入らせていただきます。ここからは丸山市長に座長をお願いいたします。

(1) 本市の教育を取り巻く諸課題について

(丸山市長)

それでは最初に、第四中学校区内の義務教育環境のあり方について、ご協議させていただきます。事務局から資料の説明をお願いしたいと思ひますが、佐藤教育次長、よろしくお願ひいたします。

(佐藤教育次長)

それでは私の方から、資料の説明をさせていただきます。お手元の資料1をご覧ください。

1. 背景にありますように、第四中学校区では、小学校6校、中学校については当初4校ございましたが、昭和30年代から50年代にかけて、第四中学校1校に統合された経緯がございます。小学校では、近年の少子高齢化、人口減少の影響により、今後数年のうちに第四中学校区内の6小学校の3分の2に当たる4小学校で複式学級が編制される見込みとなっております。2. 経過と現況をご覧ください。私ども教育委員会の方では、このような状況について当該学校区のPTAの方や地域住民の方々に説明を行ってきたところです。昨年11月28日に開催しました川南地区における学区再編学校統合に関する意見交換会では、第四中学校区内のコミュニティ振興会代表者6名と第四中学校区関係の酒田市議会議員5名の方と意見交換を行ったところです。その意見交換会では、第四中学校区全体で1校とする学校統合は推進していくべきである。あるいは、学校統合と併せて新校舎の建設を前向きに考えたほ

うがいい。また、統合方式や統合校の設置場所の具体的な案について、教育委員会が示したほうがいい。最後に、義務教育学校というものも視野に入れてはどうか、9年間の一貫した教育をやっていくモデル校にといったご意見をいただいたところです。その後については、この意見交換会での意見を踏まえ、昨年末から順次、第四中学校区内の6小学校のPTA、コミュニティ振興会の方を対象とした学校統合に関する説明と意見交換会を開催してきたところです。現段階で、ほぼ全ての地区を一巡したところですが、地域の方々からは、統合に反対といった意見は聞かれていないような状況です。続いて、3. 第四中学校区内の小学校及び中学校の建て替え時期をご覧ください。第四中学校区内では、宮野浦小学校が最も早く建て替え時期を迎えることになります。他の学校については、ほぼ同じような時期に建て替え時期を迎えることになっています。

次に資料2をご覧ください。この資料は、年末から各地域に説明を行った際に、私どもで持参した資料となります。令和4年3月31日現在の住民基本台帳を基にして、小学校は令和10年度まで、中学校は令和16年度までの市内各校における在籍児童生徒数、学級数の見込みを示したものです。第四中学校区内の各学校の状況について、令和4年度から6年後の令和10年度までの推移をご覧ください。灰色の網掛け部分が複式学級を含む状況を示したものです。令和6年度からは、第四中学校区の6小学校の3分の2に当たる4小学校で複式学級が編成される見込みです。また、十坂小学校は、今後も一つの学年に1クラスしかない、いわゆる単学級の状態が続きます。また、最も人数の多い宮野浦小学校でも、令和8年度には全校で11クラスとなり、この年に入学する新入生は単学級になる見込みで、令和10年度には、複数の学年で単学級が見込まれています。合わせて、第四中学校の令和10年度は全校生徒は335名ですが、令和16年度には227名まで減少することが見込まれており、現在に比べ約半数近くまで落ち込んでしまうことになります。

次に資料3にお進みください。こちらの資料も年末から各地域に説明を行った際に、私どもで持参した資料となります。学校統合に伴い新たな校舎を建築することになった場合に見込まれる校舎建設の工程例を示したものです。あくまでも校舎建築を行う際の一般的な大まかな工程例ですので、実際の工程は若干の長短が生じてくると捉えてくださるようお願いいたします。表の上から、①既存校敷地に建設する場合、②新規に用地取得する場合、③既存の敷地に加えて一部に用地取得を実施する場合として、それぞれのパターンを示させていただきました。例えば、統合の方向性を早期に定めること、あるいは②③の場合でも、着手時点で用地選定などの期間を短縮することによって、開校の時期を早めることが可能となる場合もあると見込んでおります。

続けて資料4にお進みください。こちらは、小規模校、複式学級を有する学校の特徴をまとめたものです。小規模校、複式学級を有する学校には、様々なメリットやデメリットがあるということをご確認ください。また、資料右側には、小規模校、複式学級を有する学校の全国的な取り組みの事例を参考として掲載しております。資料については以上となります。

なお、市内各小中学校では、今年度から小中一貫教育を全面的に実施させていただいております。こういったこともお含み置きいただきながら、酒田市立第四中学校区内の義務教育

環境のあり方についてご協議いただきますようお願いいたします。

(丸山市長)

皆様から資料等でご質問ございますか。なければ意見交換に移っていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

資料にもありました令和10年度の児童数を見ても、統合は避けられないのかなあという思いをいたしましたし、新しく校舎を建てる場合には、このスケジュールを頭に描かなければいけないと頭の整理ができたかと思えます。それでは率直な意見を皆さんからお聞きしたいなと思えますが、小中学校教育のご専門の立場で、村上委員からご意見お聞かせいただければと思います。

(村上委員)

6小学校については、川南の4校、新堀、広野、浜中、黒森は、現在もこれからも複式学級や単学級であっても少人数であることが見込まれています。また、宮野浦、十坂についても、今後児童数が減っていき、ゼロ歳児については、どちらも20名弱という数字が出されています。やはり、6小学校統合を一つのゴールとして考えていかなければいけない時かなという思いがしております。ただ、子どもたちには、統合校というより、今、小中一貫教育に取り組んでいるので、「新しい学校を自分達が作っていくんだ」という気概を持たせたいという気持ちが強くあります。しかし、新校舎建築には、工程例を見ても10年近く長い期間を要するという事、そして令和6年度からは、4校も3分の2の学校が複式学級を抱えるということ、そして、4校のゼロ歳から5歳児の教育人口は、ほぼ一桁という情報もあります。やはり、新しい学校を作るのはいいけれども、作るまでの間に何らかの対応も必要な気がします。そこで一つの解決方法としては、説明会や保護者のアンケートにもありましたが、二段階の統合。緊急的な対応をするために、まずは複式学級を抱える学校の統合を考えなくてはならない。そして、新校舎ができた段階で、6学校と一緒に新しい学校を作っていくことを考えました。ただ、私も統合の経験がありますが、大変でした。統合までの準備を、地域、保護者、学校も、財政的な負担も考慮しながら、どういった対応をするかも考えていかななくてはなりません。二段階統合は大変なので、もちろん、統合を早めるということも一つの手だと思います。

ところで、学校では、2月頃は来年度の教育課程がほぼでき上がってくる時期でもありますので、この時期にもう一度改めて統合を視野に入れ、6校の小学校でどういった共通実践ができるのか、交流学习ができるのか、ICTを活用した交流はどうかといったことを、今一度検討してもらうことも必要かと思えます。

第四中学校は、現在築35年ということで、新小学校ができる時には築45年になってしまうので、第四中学校も同じ場所に1か所にまとまって川南の小中一貫教育を推進していくのがいいのだろうと思いました。ただ、義務教育学校については、私自身、紙の上でしか勉強してないので、小中一貫校がいいか義務教育学校がいいか、検討が大切だという気がいたし

ます。私自身 30 代と 40 代に広野小学校に赴任しました。30 年以上前ですが、その頃から四
中学区小中連携ということで、先生方の交流、子どもたちの交流が活発にあり、小学校では、
こんな四中生であって欲しいという思いを持って取り組んでいました。そういったことを考
えると、川南地区ならではの新しい学校も夢として描けるのではないかと考えています。そ
して、その時思ったのは、小中一貫、小中連携においては、まず小小連携、小学校同士の連携
がとても大きな推進力になったと思っています。私としては以上です。

(丸山市長)

極めて具体的で、話の焦点が絞り込めてよかったと思います。資料 3 を見ても、仮に急ぐ
として 3 年位前倒しになれば、令和 11 年辺りに新しく建てるという工程も描けなくはない
という状況ではありますが、スピード感を持ってやらないといけないということは私も全く同
じ思いで聞かせていただきました。広野、十坂、黒森は四中に比較的近い。浜中、新堀、宮野
浦がちょっと遠い感じがしなくはない。あれだけの広範囲のエリアの小学校を一つの中学校
で連携させるのは大変かと思いました。昔から広野は比較的きめ細やかな連携をやってきた
ということですね。

(村上委員)

広野ではなく、四中学区全体で小中連携教育というものに取り組んでいました。その時に
小小連携が、小中一貫には大事なことだろうと。場所としては、今の四中の場所は水がつく
という問題もあり無理だと思うので、新しい場所に四中と 6 小学校で新しい学校の方がいい
かと思っています。

(丸山市長)

四中学区に大学のキャンパスもあるわけですが、神田委員から何かご意見ございますか。

(神田委員)

村上委員の話聞いて、もっともだなと、現場を知っている先生のお考え大変素晴らしい
なと思いました。複式学級が出てきている状況の中で、統合は当然考えていかなければなら
ないと思っておりますが、村上委員がおっしゃられた二段階もぜひ考える必要があるのだら
うと思ったところです。具体的にどのような形で進めていくかについては、人口が減ってい
るから統合やむなしではあるけれども、そのような捉え方ではなく、わくわくするような形
での統合ができないだろうか。これによって、例えば、酒田だけでなく山形県内で一番いい
教育、東北で一番いい教育をする、新しい教育をすることによって、川南に引っ越してくる
転入者が増えるような目標を持って取り組んでいくと、前向きに取り組めると思っておりま
す。具体的な内容で難しいと感じたのは、校舎ができるまでにかかなりの期間が経つことにな
り、統合するとなれば教育目標の設定等を行うと思いますが、現在は時代の変化がものすご
く早いので、5、6 年経つと、今の考えが大分古いものになってしまう可能性もある。今で

あれば、Society5.0、ESD 持続可能な開発のための教育、ウェルビーイングがありますが、それが5年後もテーマであり続けるかどうか分からないので、そうした意味でも、統合のスピード感は、できる限り早く前倒して進めて、スタートもできる限り早いほうがいいだろうと。これから5年後10年後の話になると、待ち続けられない状況もありますので、できることからやっていく二段階が良いのではないかと思います。大学が川南にあることは強みだと思います。例えば、小中一貫教育や義務教育学校は他の地域でも導入の事例はいくらでもあると思いますが、その中に大学が絡んでいる事例は極めて少ないと思いますので、この地域で特徴的な教育を行うことができるチャンスでもあります。今後、新しく用地買収をするということであれば、例えば、大学の傍に設置できれば、大学とも一体的な教育もできるかと思います。どこになるかは分かりませんが、一つの選択肢になるかと思っております。

(丸山市長)

今、大学の公立化の話を進めています。大学には附属小学校、附属中学校がありますが、公立の大学の附属小中学校が作り得るのでしょうか。東北公益文科大学には教員養成課程があり、教員免許を取れるコースもあるわけです。そういう意味では、いわゆる実践の場、それから、将来一定程度、東北公益文科大学への入学者に結びつける意味合いでも機能するかもしれない。高校があれば、慶應と同じように、小中高大一貫したものが組めるでしょうけど。そういう県立でも市立でもない公立小中学校はあるものですか。一度公立となれば、山形県と庄内2市3町で作ったと。小中学校も、個性ある教育がなされれば広く外から集まってくることになり、やぶさかではないわけです。今、市立の小中学校の統合、義務教育学校という頭でしか考えていないわけですが、やり方によっては面白いことが仕組めるかもしれないと頭をよぎったものですから。どこまで現実的に可能なのか全く分からないのですが。

(鈴木教育長)

もしやるとなったら、学区制等全部見直さないといけなくなります。

(神田委員)

別途、就学指定の学校を置いておかないといけなくなるのでしょうか。

(鈴木教育長)

そのとおりです。酒田市あるいは他の地区からも入学できるような附属小中となる。

(丸山市長)

鶴岡の中高一貫校は県立中学校となるが、学区はどうなりますか。

(鈴木教育長)

全県区です。

(丸山市長)

市ではその中学校区に中学校を置かなくてもいいのでしょうか。

(鈴木教育長)

既存の学校があれば。

(丸山市長)

既存の中学校を四中にしておくということがありますということでしょうか。

(鈴木教育長)

附属を作るとなればそうなります。

(神田委員)

附属で連携型というのはおかしい。

(丸山市長)

岩間委員はいかがでしょうか。

(岩間委員)

村上委員、神田委員のお話を聞きながら、私も資料から読み取れるところは、やはり少子化は待たなして、学級の減少は避けて通れないので、地域の皆様からも遅いという意見がある通り、この通り進めていくべきかなと思っています。資料4の複式学級だからこそのメリット、デメリットの両方がありますが、そのメリットは複式学級でしか得られないものではないと思うので、複式学級の良さを踏襲して、クラス、人数が増えても目指すところはあったと思います。新しいことに対する不安要素は挙げれば切りがありませんので、このまま手をこまねいてデメリットだけにとらわれて何も変わらないのが一番悪いのかなと思っています。建物に関して、それぞれの学校の改修が必要な時期になってきていますので、学校ごとに修繕を繰り返してお金を投入するよりも、小中一貫教育を機に新しい学校のために皆で理解して協力して、お金をかけていこうという向きになった方がいいのかなと。ソフト面もハード面も整えて、酒田市が進める小中一貫教育のモデル校のシンボルとして、建物もあって、生徒も保護者もそれに向けて応援ができる、家庭も地域も含めて、そういった考えでまとまって進めていければいいのかなと思いました。村上委員がおっしゃられた、新しい学校を自分たちが作るんだという気持ちは、子どもたち、親御さん、また卒業生、今は離れていてUターンで帰ってきたい方々が、小学校区は絆が強いというか生まれた土地に愛着を持って帰ってくる方も多いと思うので、地域のリーダーもそこで培うことを考えれば、この小中一貫校が果たすものはすごく大きいと思っています。考え方には二つあると思うのですが、神田委員がおっしゃられた、今の課題に対して一つずつ解決しようというフォアキ

キャストイングと将来あるべき姿、理想とする姿を先に立てて、そこから逆算して、今何をすべきかを考えていくバックキャストイング。どちらかと言えば劇的な変化を求められる課題にはバックキャストイングで考えた方が、今あることにとらわれた小さな改善ではなく、大きい目標、酒田市総合計画も市民の姿がこうなるためにと計画を立てていますので、小中一貫に関してもそうした考え方で目標を立てて、附属小学校や色々なやり方、アイデアを沢山出して、夢を描けるような小中一貫教育を皆で進めていければと思ったところです。

(丸山市長)

例えば、10年後、子どもたちは毎日学校に集まらなくてもいい教育環境になったら、個別最適化でオンラインでのやりとりができるので、その拠点となる学校が一つあればよくなる。月1回集まる場面が欲しいのであれば、既存の小学校に集まってもらう。家庭でオンラインでやる時代はすぐそこまで来ているのではないかと思った時に、小中学校を新設する必要はないのではという理屈もあり得るだろう。そうなれば、学区にとられる必要もないわけです。教育のシステムを酒田市独自でどこまで踏み込んで斬新的なことができるかは、文部科学省の管理の下ではなかなか難しいですよ。

(鈴木教育長)

当然無制限にとはなりません、以前から比べると随分弾力性のある状況になっていて、公立でも色々な学校が全国的にはあります。

(丸山市長)

数年先の落としどころをどうするかという作業は、手前暇かかると思います。
それでは最後に、地元である阿部委員何かございますか。

(阿部委員)

私は川南地区に住んでいます。子どもも川南地区の学校に現在通っている保護者でもあります。資料1に、今の四中也統合を重ねて現在に至っている。教育というのは、昔からずっと繋がれてきたものだと思いますが、その時代時代に合わせて変化して今があると思っています。先ほど神田委員もおっしゃられましたが、単に子どもが減るから統合しましょうということではなくて、もっと明るい未来に向けて、子どもたちのために、またその地域のために、悲観的にならず、その時代時代に合わせて教育をまた新しいものに変えていくというのが今この時期なのかなと思っています。単に子どもが減るから6小学校統合しましょうということではなくて、これからの時代に合った新しい教育、また地域への新しい携わり方、子どもも含めてその地域で考えていきたいと思います。川南をモデルとして、明るい未来に向けて動いていった方がいいのかなと思っています。教育のみならず、各地域が抱える問題も多々あり、子どもたちが携わる伝統文化が今動き出せていない地域が少なくないと思います。毎年お正月に、宮野浦の日枝神社でそこに住んでいる小学生が大黒舞を舞うという伝統行事

があります。コロナ禍で止まっていますが、コロナ前はうちの子どもを最後にやる子どもがいなく止まっているはずです。なので、この6小学校の各学区が中学校区で一緒になった時に、各地域の伝統行事、継承していかなければいけない問題の解決にも繋がっていくのではないかと考えています。幸い、川南には東北公益文科大学があり、産業技術短期大学校もあります。教育のまちとして、まちづくりを推し進めていくのも一つではないかと思えます。公益大生や地域との関わりがより広く深くなっていくのではないかなと思えますし、新設するとしたら場所はどこになるか分かりませんが、そこに雇用が生まれるかもしれません。他から入ってこられる家庭もあるかもしれません。メリット、デメリットはあるのかもしれませんが、まずは、明るい未来に向けて動き出すことが一番重要ではないかなと思えます。先ほど村上委員の二段階というご意見がありましたけれども、何年か前に亀ヶ崎小学校が新しく建つ時に旧酒田商業高校に何年か移動した経験を踏まえて、不可能ではないと思っています。また、現小学校が統合するとすれば、その小学校の利活用も含めて、地域住民の方々へ説明等必要なのではないかと考えています。ぜひ小学校6校統合と四中との小中一貫校、教育のまち川南という明るい未来が来ればいいと思っています。

(丸山市長)

小中学校統合の話だけでなく、まちづくり全体の問題というのはおっしゃる通りで、スクール・コミュニティという概念を打ち上げているのは、そういう意味合いが強く、4月から市長部局に置く地域プロデューサーの大きな役割というのは、まずは川南地区のまちづくり全体をどうするかといった構想をしっかり作る。学校統合はその一部分。統合を二段階でやるか一気にやるかは内部でも議論し、地域の皆さんの意見も聞かなければいけないと思います。そういう意味では、川南地区の地域づくりのグランドデザインを描かないと駄目だろうという思いで聞かせていただきました。例えば、商業高校跡地に着手する前に、我々は観光振興や交流のまちづくりのためのグランドデザインを描いて、駅前、山居倉庫周辺、日和山と港周辺、中町の中心市街地のゾーン決めをして、ここはこういうことをやろうということ組んだわけです。川南も、しっかりとした何とか構想というのを一つ打ち上げる必要があるかもしれない。そういう共通理念で、教育委員会だけでなく、まちづくりの全ての部局が関わっていくことが必要かなと皆さんの話を聞いて感じました。公益大学を作る時も、拠点都市計画があり、あの周辺に色々なゾーンを描いて土地の利用計画も含めて全部組み立てて、公益大学がそれにはまっていってという全体構想の中で重点的に整備していった。今回の件も、浜中、新堀までかなり広範囲、最上川より南を全部包含しているため、相当大きなまちづくりの構想という位置付けにして向かわないと簡単ではないなど。皆さんの意見を聞く前は、二段階論は手間暇がかかって逆に大変だろうと思ったので、統合するなら期間を決めて一気にと思ったのですが、聞いていく中で、小手先の統合だけでは難しいという思いを少し強くしました。今の総合計画は5か年で、令和9年までです。今の総合計画の期間でできる話ではないと考えた場合、もう3年位すると次の計画の策定に入ってくる。その時点で、大枠を組んで、ロードマップも含めて構想のようなものを打ち上げないとなかなかできない。そう

なると、少なくとも完成まで10年位は見なければいけない感じがします。10年かかるなら二段階論が現実的という話になってくるでしょうし、そこには市として必要な投資は避けられないと受け止めたところです。今、東北公益文科大学の公立化の話もしていますが、本気でやるならプロジェクト組織を作らないと難しい。理念的な議論を幾らやっても作業が前に進まないで、用地交渉するにしても何をやるにしても特殊部隊は必要になるので、まず、その組織を作る作業を急がないことには具体的に前に進まないと思ったので、市役所の中もそうですけど、住民を巻き込んで意見のやりとりをする場も必要になってくるので、その両方の組織作りが必要だと思って聞かせてもらいました。スクール・コミュニティの学区の関わりでは教育委員会、全体のまちづくりの視点では地域プロデューサーを巻き込んで市長部局が主導権を握るといふ二本立てで取り組んでいきたいということを委員の皆様にはお話させていただきたいと思います。おそらく、皆様の認識としては小中学校一つにしていこうということで共有されているので、教育の内容については、教育委員会としてきちんと整理して示していただいて、車の両輪になって具体的な実現の道筋を一步一步固めていく必要がある気がしますので、令和5年度なるべく早急に進め方を詰めさせていただきたいと思った次第です。ありがとうございました。この件について教育長何かございますか。

(鈴木教育長)

私は常々大規模とか小規模校ということではなく、大きくても小さくても本来やるべきこと、学校に要求されることは、これからもあまり変わらないのではないかと考えています。先ほど市長もおっしゃっていましたが、知識の伝達だけであれば、こういったもので今から十分できるわけですが、そうではなくて、自分の考えをきちんと持って、あるテーマで意見を闘わせる、仲間と議論する、その中で、AでもBでもない新しいCという構想を皆で作りに上げていくような力が今からの子どもたちにすごく必要ではないかと考えています。そういう意味でも、学校は、非常に重要な場所だと思っています。一方で、地域ということもあるので、現在、酒田では中学校区でスクール・コミュニティとしています。全国的にはブロックみたいな形で、酒田でいうと7つの中学校があるので7ブロックという形で地域づくりを始めているところもあると聞いています。両面でどういった環境で子どもたちを育てていくのかということを考えていかなければいけないと思いました。ただ、時期的なものに関して言うと、いずれにしても急がないと駄目かなと今お話を聞きながら感じたところです。

(丸山市長)

建物やエリアについては、市町村が考えてやれますが、教育課程や教員の皆さんは県の教育委員会に所属していて我々がそこにメスを入れられない。酒田市だけ独自の教育システムを作ることに県教委はよしとしないと思いますが、どうでしょうか。

(鈴木教育長)

今の仕組みの中でも、結構柔軟にできることはあると思います。

(丸山市長)

例えば、川南地区の子どもたちは、月曜から水曜は家でオンラインで勉強して評価をもらい、週に1回だけ学校に出ればよいというようなことまで現実的にできますか。

(鈴木教育長)

その例は、なかなか無理だと思います。

(丸山市長)

その辺がどこまで許容されているのか、我々にはよく分からないところがある。どこまで独自性が認められるのか定まっていない。そうすると、既存の学校の建て替えの方に小さく集約せざるをえない、そういった不安が少しある。いずれにしても、時間的な余裕はないということからすると、どちらかに早く方針を決めて動き出さないといけないという思いを強くしました。教育委員会サイドと市長部局とで、詳細に打ち合わせをさせていただきながら、進め方についても少し協議をさせていただきます。ありがとうございました。

(丸山市長)

次に、「酒田市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」の前文について議題にしたいと思います。総合計画後期計画の教育に係る部分を大綱にするということは前回ご了承いただきましたが、神田委員から、この大綱に掲げる施策の目的、何のためにこれらの施策を進めるのかといったことが分かるように、国の教育振興基本計画案も参考にしながら、前文として設けてはどうかというご意見をいただきました。今回、素案を作りましたので、ご意見をいただければと思ったところです。それでは、中村企画部長から説明をお願いしたいと思います。

(中村企画部長)

酒田市教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の前文（案）についてご説明を申し上げます。資料5と資料6をご覧くださいと思います。初めに資料5、前文の案でございますが、酒田市は、公益学の発祥の地として、公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むとともに、学びあい、地域とつながる人を育むことにより、未来を担う人材を育成し、一人ひとりのウェルビーイングを実現します、としてございます。今回の大綱につきましては、酒田市総合計画後期計画の教育、学術及び文化の振興に関する部分をもって、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱とすることにつきまして、前回の総合教育会議でご議論いただいたところでございます。そのため、前文につきましては、酒田市総合計画後期計画の第1章のタイトル、未来を担う人材が豊富な酒田から、未来を担う人材をそのまま引用しております。また、第1章政策2、大学・高校とともにつくるひととまちは、資料6の1番から3番までの施策で構成されておりますが、そこから公益学の発祥の地としてという文言を入れておりま

す。次に、第1章政策3、公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育むまちは、資料6の4番から9番までの施策で構成されておりますが、そこから、公益の心を持ち明日をひらく子どもたちを育む、をそのまま引用しております。次に、第1章政策4、学び合い地域とつながる人を育むまちは、資料6の10番から14番までの施策で構成されておりますが、そこから学び合い地域とつながる人を育む、をそのまま引用しております。最後に、国の次期教育振興基本計画の答申（素案）の中から、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念でございますウェルビーイングも引用しております。以上のことにつきまして、一つの文章として前文を組み立てたものでございます。説明は以上です。

（丸山市長）

前文はこの3行でいいかということになりますが、皆さんの意見をお聞きしたいと思えます。ウェルビーイングという言葉は、国の次期教育振興基本計画にもあり、前文にも目立つカタカナ文字として入っているわけですが、DXだったり、その都度その都度色んな横文字が出てくるのはいかがなものかという思いもある。本当の英語の言葉の意味、中身を分かって使っていますよねと聞かれることがある。ウェルビーイングも、実際どこまで我々は理解しているのかということもあります。前文としてどうでしょうか。

（神田委員）

確かにウェルビーイングの概念自体が意味することが何なのか、非常に分かりにくく難しい。今ここにいる我々全員が、ウェルビーイングを違うイメージを持っているかもしれない。定義を見ても、持続的な幸福を含む概念となっているので、ここに書かれているものはあくまでもウェルビーイングの一部でしかないということになってきます。そういう意味で、市長がおっしゃる通り、この用語を入れないというのも一つの選択肢だと思いました。総合計画や酒田市の教育目標などに書かれていない新たな目的や目標が前文に書かれてしまうと、この施策の大綱との整合性が取れなくなってしまうので、基本的には、これまで使われている言葉で組み立てた方が良いでしょうと思います。もう一つ気になったのは、酒田市は、一人ひとりのウェルビーイングを実現します、という文章になっているので、ウェルビーイングの実現の主体が酒田市、酒田市が私のことを幸せにしてくれるという構造になっています。幸せになるためには一人一人の努力が必要で、それに対して酒田市が環境整備をする、一定程度の支援をするということだとすれば、主体は一人一人だと思えます。主体が一人一人だとすると、実現に寄与しますといった表現になるかと思いました。

（中村企画部長）

主語が酒田市は、に始まり、実現しますは言い過ぎかなという感じもしますので、神田委員のお話から、一人一人のウェルビーイングの実現に寄与します、貢献しますといった形の方が望ましいと思いました。

(神田委員)

貢献するため総合的な施策の大綱を定めますという形になるかと思います。

(岩間委員)

この前文が入ることで、具体的にどうしてこういうことをするのか大綱の本質としてこの3行でシンプルに入ってくるはとても分かりやすいと思いました。捉え方は人それぞれですので、市民一人一人が前文を見て感じるところを思いのままにそれぞれの章でいいなと思うところに力を尽くしてもらって、できることから何か一つでもという気づきが市民一人一人に芽生えたらいいかと思いました。最初の議題にもありましたが、時代の流れによって教育の方針や考え方は変わるのだと思います。今、横文字で難しいと思う部分も、今の時代に合わせた考え方ということで、それって何だろう、どういうことなのだろうと、皆さんに問いかけて、それぞれの幸せに向かって、市民、年齢、性別、LGBTQに関わらず、誰もが幸せに暮らせるまちとしてこれを読んでもらえたらと思いました。

(阿部委員)

前文は、大綱の目的ということもありますので、市民皆さん誰が見ても理解できるものである必要があるかと思っています。岩間委員からもありましたが、今の時代に合ったウェルビーイングが、市民の皆さんから興味を持っていただくために、あえて記載するのも一つかと思っています。その判断は難しいですが。市民の皆様に分かりやすく伝えられる3行にしたいと思っています。

(村上委員)

前文を加えたことで、方向性がより鮮明になったような気がしますし、総合計画との関連も見えてきました。ウェルビーイングに関しても、次期教育振興基本計画の素案を見たときに、先ほど社会包摂のことを市長もおっしゃいましたが、共生社会を作っていく、ここでの言葉を借りると、誰一人取り残さずという言葉が私はとても大事だろうと、多様性や社会包摂を含めて、共生社会を作っていくということを一つ目指したいなと思いながら読ませていただきました。

(丸山市長)

共生社会という言葉は一般化されているので、しっくり入ってくる。ウェルビーイングという言葉はそこまで達してない気もするので、共生社会という言葉があってもいいかなと思いました。この大綱を受けて、教育委員会も執行機関としてこれだけの施策を展開していくことになりますが、教育長はいかがでしょう。

(鈴木教育長)

酒田の教育目標が、学び合い、ともに生きる、公益のまち酒田の人づくりです。ともに生

きるというのは、共生社会のことですけど、非常にじっくりくる教育目標になっていて、僕
はいいなと思って捉えています。それがあるので、この前文はこれでもいいかなと思います。
ただ、ウェルビーイングは捉え方が難しいと思います。学校の先生方は、ウェルビーイング
の言葉としては結構早い段階からご存じだったのではないかなと。特に校長先生、教頭先生
であれば、OECDで出した段階で皆さんこの言葉は見ていたのではないかなと思うので、教
育関係者としては馴染みのない言葉ではないだろうと考えています。

(丸山市長)

総合計画でもウェルビーイングの言葉は入れましたよね。

(中村企画部長)

総合計画後期計画の意義の部分に注釈を入れて載せています。

(丸山市長)

ウェルビーイングの注釈を読むと、すんなりも入ってこない。精神的な豊かさの重視（ウ
ェルビーイング）の方が入ってくる。大綱は、いつ決定を見なければいけないのでしょうか。

(中村企画部長)

今日の議論を踏まえて、庁内決裁を取り議会に報告という流れになります。

(丸山市長)

教育目標と総合的な施策の大綱は同じである必要はない気がしますので、そういう意味で
は共生社会という言葉を決めるかはもう一度内部で詰めたいと思います。ウェルビーイング
の注釈も精査したいと思います。

(鈴木教育長)

OECDで出したウェルビーイングは、個人と社会、一人一人と社会にとって幸せな状態
をとよく使われていたと認識しているのですが、そういうニュアンスがこれだと伝わってこ
ない感じがします。

(丸山市長)

ビーイングは状態のことで、幸せな状態のことを言っているのだと思います。金銭面だけ
でなく精神的な豊かさも入るだろうし、教育長がおっしゃったような概念の説明だったら
いい。将来にわたる持続的な幸福を含む概念と言われてもよく分からない。

(中村企画部長)

総合計画の注釈では、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念と

して、ただし、決まった訳し方はなく、満足した生活を送ることができている状態、幸福な状態、充実した状態などの多面的な幸せを表すとしています。

(丸山市長)

その方が分かりやすい。この説明だけはさらに注釈が必要なような気もするので少し修正作業をお願いしたいと思います。

今日は協議題二つについて、色んな視点で問題を投げかけていただけたと思いますし、内部的にもう少し詰めた段階で、またこの場で方針等をお示しできたらという思いをいたしました。ありがとうございます。皆様の方から、今日の二つの案件の中でこれだけは言っておきたいということがあれば、意見として伺いたいと思いますがいかがでしょうか。最初の議題は、先の長い話になりますので、また折を見てご意見いただきたいと思います。

(2) その他

(丸山市長)

その他、何か皆さんの方から、この会議の進め方や来年度の体制等質問があればお願いします。何かございますか。

無いようですので、予定の協議は終わりましたので、これで座長は降ろさせていただきたいと思います。

(阿部企画調整課長)

今年度の総合教育会議は、本日の会議で最後となります。来年度の会議につきましては、改めて事務局よりご連絡いたしますのでよろしく願いいたします。

4 閉会

(阿部企画調整課長)

これをもちまして、令和4年度第3回酒田市総合教育会議を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。